

**新聞を通じて社会の中で生きる自己を知り、他者と共に生きる人間を育成する実践  
～NIEを通じて、新聞を読み、意見を表現し、メディアリテラシーの育成を図る～**

新潟県立久比岐高等学校

## 1 学校の概要

本校は、平成 18 年に県立柿崎高等学校と県立吉川高等学校が統合して誕生した、創設 14 年目の学校である。今年度は 3 学年が 3 学級、1・2 学年が各 2 学級で全校生徒数 163 名の全日制普通科の高等学校である。教育目標としては、「創造する力」「豊かな心」「進取の気概」と 3 つの柱を掲げ、高い志を持って真理を探究し創造性豊かな人間、正義を尊び、友情を分かち合い他者と共に生きる人間、困難に打ち勝ち挑戦する気概を持った人間の育成を目指している。

学習指導においては、基礎学力が十分でない生徒も多いことから、「学び直し」等による基礎学力定着を図るため、「ステップアップ」という学校設定教科を設けている。また「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり推進事業」の指定校として、「学び合い」授業等の協働学習を実践して教科指導の中で生徒の人間力向上を図っている。

総合的な探究の時間では、1 年次では上級学校や企業見学、2 年次では就職希望者にはインターンシップ、進学希望者には進路意識の涵養を図るための講座を設けるなど、生徒自身が進路意識を高めるための計画を作成・実施している。また教育目標に照らして、校外クリーン活動を全学年で実施し、地域社会の一員である自覚を促すように図っている。



本校での遠足におけるクリーン活動



学び合い授業の様子(数学)

## 2 NIE 実践のねらい

本校では、生徒の実態を踏まえて以下の3点を実践の狙いとした。

- (1) 生徒がまず新聞に目を通し、記事を読むことで現在のさまざまな場所で起こっている事象に対して、幅広い興味関心を持つこと。
- (2) 生徒が自ら興味関心を持った記事に対して、自分の言葉で意見や感想を記述できるようになること。また他者の意見や感想に対して、自分の言葉でそれに対する意見を記述できるようになること。
- (3) マスメディアとしての新聞は、正確・公平な情報を伝える責務があるが、各新聞社の主張には違いがあり、それを理解することで基礎的なメディアリテラシーを身につけること。

(1)については、本校生徒の実態としてあらゆる機会に情報を収集するという事に消極的である。ことに新聞を日常的に読む習慣がある生徒は少ない。このことから、まず新聞を開き、どんな記事が掲載されているのか、また世の中ではどのような事件が起こっているかということを知ってもらうことを考えた。そこから、自分の興味にあった記事などを読み、世の中の事象に少しでも関心を抱いてもらうことを考えた。

(2)では本校の教育目標にもある、他者と共に生きる人間性を育成することを踏まえて、自分の意見を自分の言葉で表現できる力、また他者の意見についてまずは感想を自分の言葉で表現できる力を持てるようにしたいと考え、実践のねらいに据えることにした。

(3)では、最終的に社会の中で主体的に生きる人間の持つべき力として、情報に流されるのではなく、その内容を考えつつ疑問を持てるようにする事を考えた。

## 3 本年度実践の概要

### (1) 高校1年生の実践

NIEの担当者が、1学年の担任をしていることから、1年生に対する実践が中心となった。

#### ① 新聞記事スクラップ

高校1年生は、9月から学校にいる時間を利用して、クラスに配置された新聞を読んで、

興味を持った記事を切り抜き、自分の意見や感想を書く課題に取り組んだ。10月からは、自分の意見や感想だけでなく、自分の前に当番となった生徒の意見や感想に、自分のコメントをつけて提出する課題に取り組んだ。最初は、課題に取り組む事に後ろ向きであった生徒達も少しずつ慣れていき、それぞれ個性的なスクラップを作成することができた。このスクラップはファイリングして、11月の息吹祭(本校文化祭の名称)で掲示をした。



息吹祭での掲示(11/9)

## ②政治経済での授業

7月に参議院議員通常選挙があったので、授業時に各党のマニフェストや選挙戦の記事を利用して、日本の政治課題や問題点、これからの政治方針についての授業を行った。

夏季休業中には、新聞記事感想文の提出を課題とした。大多数の生徒が、自分の興味のある記事に関しての感想文を提出した。

12月12日(木)には新潟県 NIE アドバイザーの蟻塚幸子教諭(県立新潟商業高等学校)を招き、新潟県の財政危機問題についての記事を利用して、新潟県の財政状況や改革の目的等を理解させる研究授業を行った。

1月16日(木)には、まとめの研究授業として各新聞社の社説から、メディアリテラシーの力を養う授業を行った。



1月の研究授業の様子(1/16)

## (2)全学年での実践

高等学校全学年における実践として、今年度は10月9日(水)に新潟日報社総合プロデューサー室次長論説委員 中村 茂 氏をお招きし「新聞から見える人権問題」という演題でご講演いただいた。この講演は本校での人権教育・同和教育講演会とタイアップしたものであった。

中村氏の講演は、豊富な新聞記事から現在起こっている人権問題を自己の体験等を交えながらわかりやすく講演していただき、生徒の事後感想の中でも中村氏に対してより具体的な質問が出てくるなど、大変有意義なものとなった。

## 4 実践例

(1)授業者：教諭 大貫康範

(2)対象学年と生徒：普通科1学年 23名

(3)期日：令和2年1月16日(木)

(4)教科・科目：公民科 政治・経済

(5)授業の目標

- ①「安倍内閣の年頭会見」の内容に対して各新聞社がどのような意見を社説で説いているか理解する。
- ②各グループで新聞社の社説を読み解いて、安倍政権の考え方に対して「賛成」か「反対」なのかを理解する。
- ③新聞社の社説を通して意見の違い(特色)を読み取り、その違いを考察する。

(6)授業の展開(略案)

時間	授業の進め方	教師○・生徒●の活動	評価
導入 (5分)	○授業の内容と目的を確認する。 ・上記2の内容を確認する。 ○社説とは何かを端的に説明する。	○事前に、授業で使う資料とワークシートの拡大版を黒板に掲示する。 ●班で話し合えるように、机を向かい合わせにする。 ○●「社説」とは何かを板書し、生徒はワークシートに記入する。	
展開1 (20分)	○題材の説明 ・1月6日に行われた安倍首相の年頭会見を取り上げる。 ○年頭会見で何が語られたのかを確認 (約5分)	○5分程度時間を取り、資料①を読むように指示する。 ●5分間で読めるところまで読む。 ○資料①を説明して、7項目について説明したことを、生徒に理解させる。 ●資料①下の社説を読み、ワー	○机間巡視  ○解答が出にくい場合

	<p>○ワーク 1 を解答し、班のメンバーで確認する。(約 10 分)</p> <p>○ワーク 1 の解答を行う。(15 分経過で)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞 A、B、C 班の数名を指名し解答。</li> </ul>	<p>クシート 1 をメンバーと共同し解答する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●早く終わったら、ワーク 2 にとりかかる。</li> <li>●ワーク 1 の解答を確認する。</li> </ul>	<p>は、友人・教員にヒントをもらうように指示を出す。</p>
展開 2 (20 分)	<p>○ワーク 2 を解答し、班のメンバーで確認する。(約 10 分)</p> <p>○新聞 A、B、C 班の代表者からワーク 2 の解答を発表してもらう。(約 10 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞 A は会見の内容に「賛成」意見が多い事を確認する。</li> <li>・新聞 B・C は会見の内容に「反対」意見が多いことを確認する。</li> <li>・それぞれの理由もあったら、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料①下の社説を読み、ワークシート 2 を完成させる。</li> <li>●ワーク 2 の「賛成/反対」の理由を、説明できるように記入する。</li> <li>●代表生徒は前に出て発表する。</li> </ul> <p>○生徒の発表を、拡大したワークシートに記入する。</p> <p>○発表時は、配付資料の裏面にそれぞれの社説があるので、それを見るように指示する。</p>	<p>○解答が出にくい場合は、友人・教員にヒントをもらうように指示を出す。</p>
まとめ (5 分)	<p>○ワークまとめを解答する。</p> <p>○授業の内容と目的を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリテラシーの意味とそれを持つことの大切さ。</li> </ul>	<p>○前回の授業を確認して、ワークまとめを解答させる。</p> <p>○基礎的なメディアリテラシーを持つことの大切さを伝える。</p>	<p>○解答と説明を行う。</p>

### (7)授業の評価

- ①「安倍内閣の年頭会見」の内容に対して、新聞社が社説でどの点について説いているか理解できる。(知識・技能)
- ②グループで新聞社の社説を読み解き、政権の考え方「賛成」か「反対」なのかをまとめることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ③新聞社の社説を通して意見の違い(特色)を読み取り、基礎的なメディアリテラシーを身につける。(学びに生きる力)

### (8)研究協議会での指導

研究協議会では、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授 中平 一義 先生を講師として指導・助言をいただき、他の参加者と意見交換が行われた。

授業内容については、会見の要旨(正確な情報)を理解し、社説から各新聞社の意見を比較する展開を考えた。中平先生からは、事実と意見を分けながら自身の意見を作り上げていく手法は、イギリスのシティズンシップ教育のあり方に近いとのご指摘をいただいた。これには意図せず主権者教育へのつながりを考える機会になった。

授業展開については、生徒間での理解力、新聞を読む速度に差があり班活動はなかなか思うように進めることができなかった。また授業者のワークシートの説明が、生徒にとって理解するのに時間がかかるものであり、生徒の実態にもっと即したものを作成すれば良かったと思う。ただ、生徒達は自分なりの速さで、会見の要旨と社説の読解を進めていたと思う。

最後に、最近では若年層を中心にネットニュースを見ることで情報を得ている事が多い。このことで、コンピュータ側がニュースの傾向を判断して自分が興味を持てるニュースにしか触れないようになるという弊害が生まれている。そのため関心のない情報を知らないという状況が生まれている。これでは偏った知識や価値判断が生まれやすい。その防止策として新聞を通してメディアリテラシーを養うことの必要性を中平先生は指摘された。

## 5 成果と課題

成果については、自発的に新聞を開かない生徒が多かったが、課題を与えられたことで様々な新聞記事を通して現代の社会問題に触れることができ、見識を少しでも広げることができたところである。また導入に新聞記事を使うことによって、生徒の興味関心や発言が増え、授業展開がしやすい時があった。生徒達は心の中では、新聞に対する興味関心を持っていることが分かっただけでも、今年度の活動の成果として考えることができるのではないかと思う。

一方で、課題としては以下の二点が挙げられる。

まず NIE 事業の実践初年度ということもあり、1 学年の実践が中心になったことである。2 年目の次年度は、他学年でも実践活動を行いたい。

本校の生徒は卒業後、地元企業へ就職を希望する生徒が多い。そのため、3 年生には面接練習に必要な時事問題等を調べさせるなどの方法がいろいろあったが、それを展開することができなかった。

もう一つは、本校生徒の実態として、実践の狙いとなる「新聞を読むこと」がとても高い壁であったことを突き崩せなかったことである。その点では「なぜ新聞を読むことが大切なのか」という思いを、実践者も含めて突き詰めて生徒に理解させることができていなかったからだと考える。

来年度はこの点を反省しつつ、少しでも新聞に対して興味関心を抱く生徒を増やし、「社会(他者)と積極的に関われる人間力を持った」人間の育成に努めていきたい。

(大貫 康範)